

Revision System

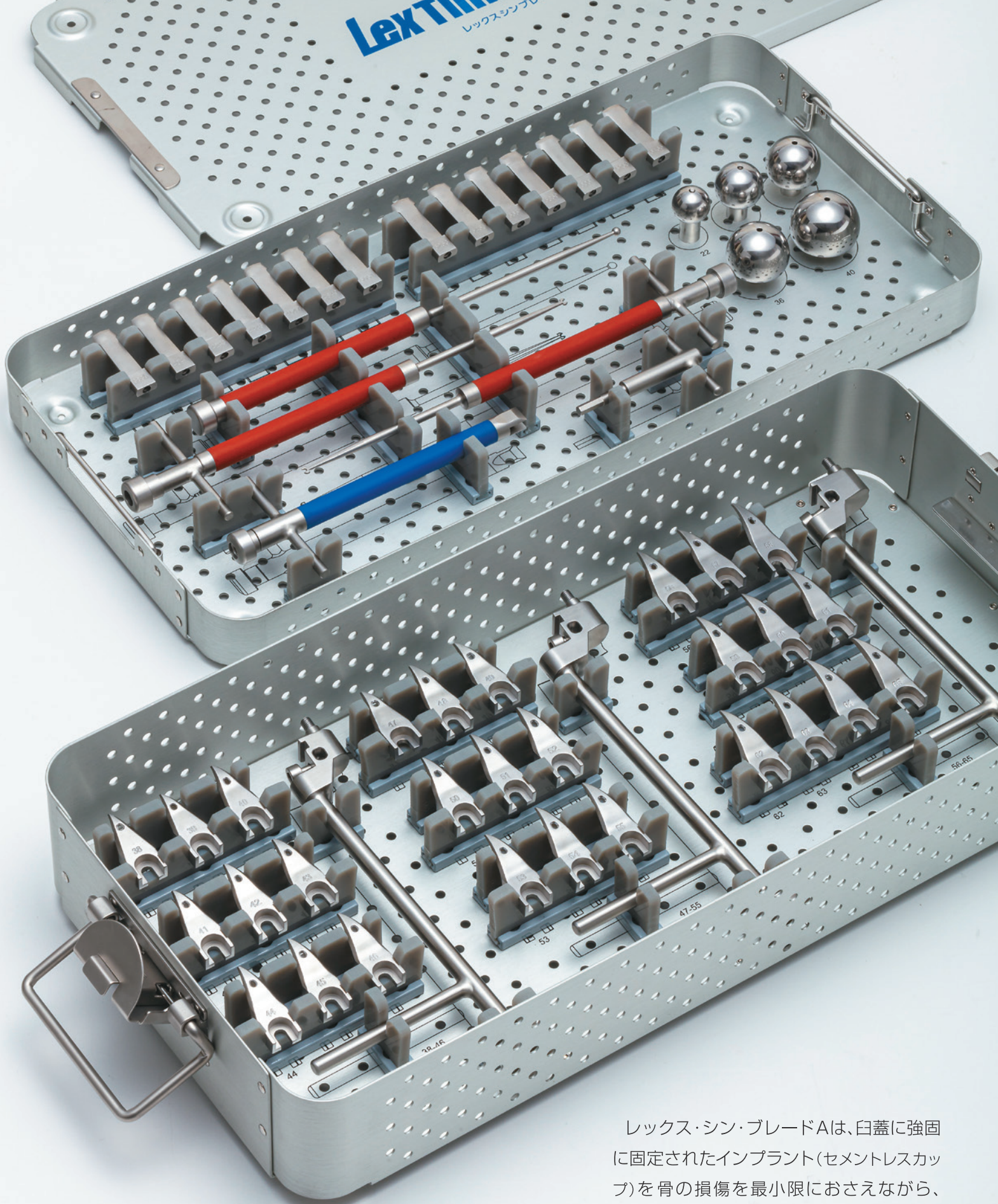
LexThinBLADE[®]-A

レックスシンブレード-A

リビジョン用 薄刃ノミシステム〈臼蓋側用〉



医療機器製造販売届出番号 27B2X00329210069



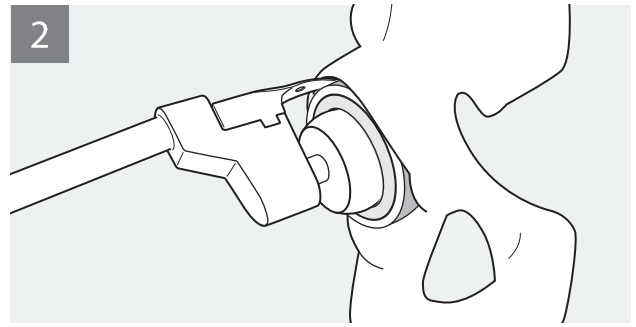
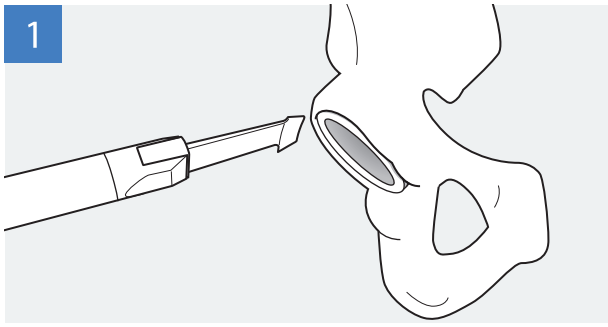
レックス・シン・ブレードAは、臼蓋に強固に固定されたインプラント(セメントレスカップ)を骨の損傷を最小限におさえながら、短時間で安全に骨とインプラントの結合部を剥離することを目標に開発された薄刃ノミシステムです。

従来までなかった、エッジリムーバーが既存のブレードシステムの使用勝手を大幅に高め、短時間で作業を可能とします。

Revision System

LexThinBLADE-A レックスシンブレードA

リビジョン用 薄刃ノミシステム〈臼蓋側用〉



エッジリムーバーによる臼蓋縁の剥離

臼蓋縁にオーバーハングした骨を取り除きながら、カップに侵入した臼蓋骨の剥離を行います。臼蓋骨とカップの界目に慎重に薄刃を潜りこませ、後に使用するブレードが容易に刺入できるように開口部を形成します。

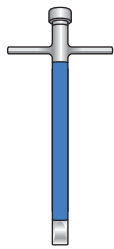
カップ径に沿わせて正確に薄刃を挿入させるために、カップの大きさに合わせた薄刃が2mm刻み計14枚準備されています。(38mm~65mm)

専用回転ブレードによるカップリビジョン

スクリューとライナーを抜去し、ボール径と同じライナートライアルを挿入します。エッジリムーバーにて作製した開口部にブレードを潜り込ませ、ボールを中心にブレードをカップ外径に沿って円周方向に回転させ、骨とカップの結合を剥離します。

ブレード内径はカップ外径に合わせ、骨の切削を最小限にとどめられるように、カップの大きさに合わせたブレードが1mm刻み計28枚準備されています。(38mm~65mm)

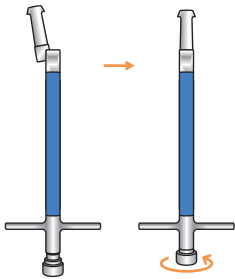
LTB-A01 エッジリムーバーホルダー



LTB-A02~15 エッジリムーバー

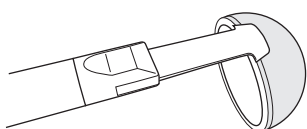


エッジリムーバーは下図のようにホルダー頂部を回しリムーバーをしっかりとねじ止めます。



使用時はカップの赤道部に沿って打ち込みと抜去を繰り返します。

半径方向に扶ろうとすると薄刃もしくは骨が破損することがありますので、抜去の際はTバーをたたきまっすぐ後方に引き抜きます。

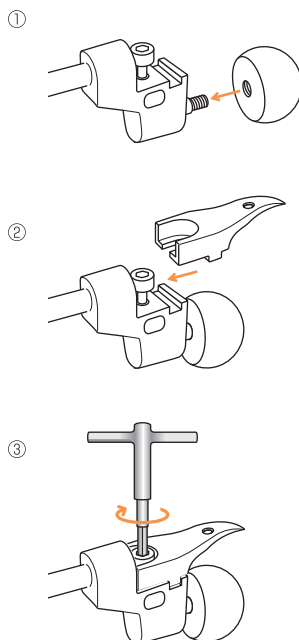


LTB-A16~18 ブレードハンドル



ブレードハンドルはブレードの径により38~46mm用、47~55mm用、56~65mm用の3種類が準備されています。

ブレード径に合うハンドルに使用ボールをねじ込み、ブレードは六角レンチにて組み立てます。(下図参照)



LTB-A19~46 ブレード



LTB-A47~51 ボール



LTB-A52 六角レンチ

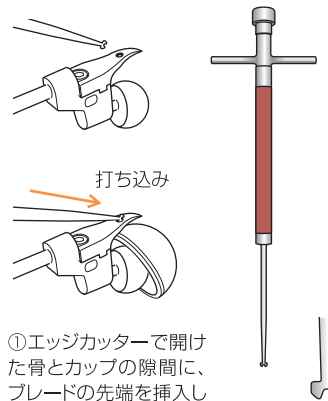


ボールは22mm、28mm、32mm、36mm、40mmの5種類から選び、ハンドル先端にねじ込みます。

ブレードはハンドルの取り付け部の溝にはめ、固定用のねじ下にはめ込みます。

六角レンチにて締め込みます。

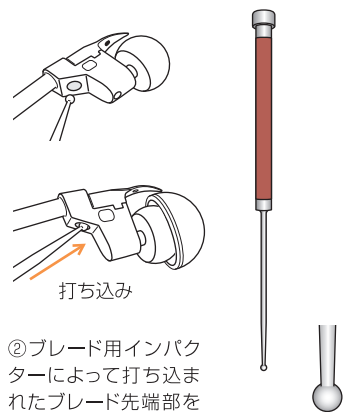
LTB-A53 ブレード用インパクトター



①エッジカッターで開けた骨とカップの隙間に、ブレードの先端を挿入します。

ブレードに設けられた打込穴にインパクトターをあてがい、ブレードをカップの赤道部より北極方向に慎重に打ち込みます。

LTB-A54 ブレードハンドル用インパクトター



②ブレード用インパクトターによって打ち込まれたブレード先端部をさらに北極方向に打ち込みます。

ハンドル用インパクトターでブレードハンドルの窪みを槌打してブレードをさらに奥まで打ち込みます。

①、②、の作業を数回繰り返し、最終的にブレードハンドルのボールを中心として回転させ、骨とカップを離脱させます。



リビジョン用 薄刃ノミシステム
〈フェモラル側用〉

LexThinBLADE[®]-F

レックスシンブレード-F



株式会社 メドメタレックス

大阪事業所 〒555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島4-3-29
TEL.06-6476-9558 FAX.06-6476-9557

東京事業所 〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町1-14 第2東ビル716号室
TEL.03-6260-7230 FAX.03-6260-7231



大阪事業所にて認証取得



medmetalex.com